

平成22年度 第3回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成22年11月15日(月) 午後1時30分～午後3時30分
2. 場 所 大和市役所5階 委員会室
3. 出席状況 委員7名 欠席3名
事務局4名(文化振興課長ほか3名)
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - (1) 開会
 - (2) 文化的側面からみた大和市の課題について
 - (3) 施策目標・具体的方策の構成について
 - (4) その他
6. 会議資料
 - ・文化的側面からみた大和市の特性と課題
 - ・施策目標・具体的方策の構成

【会議要旨】

(1) 開会

(2) 文化的側面からみた大和市の課題について

市から、「文化的側面からみた大和市の特性と課題(資料1)」について説明。

「1. 歴史と伝統文化の息づく大和市」について

会 長：つる舞の里歴史資料館といった市内の歴史施設に市民の方がもっと来てもらえるような方策を講じる必要があると感じている。課題の中にそういった要素を加えてほしい。

「2. 市民主体による多彩な文化イベントが行われている大和市」について

委 員：大和市には、日常的に文化芸術を振興している団体や市民が多く存在しており、こうした点も大和の特性として挙げられると思う。いわゆるカルチャーの発表会レベルではなく、20年、30年取り組んで、プロの力を結集している団体が主体的に活動を行っていることを特性として加えていただきたい。

事務局：確かに、この文章は文化イベントに偏った書き方になっている。委員の言うとおり、身近なところで文化芸術の関心を高めるための活動を行っている方も多くいるため、そういった内容の記述を加えていく方向で検討する。記述のイメージとしては、公共的な活動を行う団体が多くいるといった内容になると思う。ただし、どのような活動をしたら公共的な団体といえるのか、その基準を定めることは非常に難しいと感じている。

委 員：先日、写真の展示会に行った。この団体は、20年活動しており、会長が、市に文化芸術連合会が出来て参加しているが、どのような支援をしてもらえるのか、また我々はどのよ

うに協力したらよいのかということ saying it. At least, regarding the joining to the Cultural Arts Federation, it is not good to have a history of activities as one of the standards, and to have a certain degree of line drawing, even if it is good, I think.

事務局：文化芸術連合会については、まだ立ち上げたばかりで、整理がついていない部分もある。計画と照らし合わせながら、支援の方策、運営手法について検討していきたい。

委員：音楽家協会では、音楽大学卒業、あるいはそれに見合った活動をし、それを認める推薦者がいることを加入の線引きをしている。文化芸術連合会に加入していることを公共的な活動団体とする基準の1つとするのは分かりやすいと思う。そのほかの基準は1つ1つのジャンルで決めるべきか、決めるのであればどのように決めていくべきなのか、また、プロとアマを分けるにはどうしたらいいのか、こういった点について、市としての考えはあるのか。

事務局：現段階では、具体的に検討は行っていない。

委員：私は、自分の楽しみのために行う人たちがアマチュア、他人に感動を与えたり、パフォーマンスによりお金を得たりする人たちがプロであると思っている。プロとアマの線引きをするのであれば、その業績であるプロフィールなどを出してもらえば良いのではないか。団体にはプロアマを問わず、色々な人たちが所属していることから、団体の単位でプロとアマの線引きをすることは難しいと思う。

委員：見据えるべき課題の中の、「発信の核づくりの推進」、「文化芸術と観光との連携の強化」を見て、発信力を強化していくためには、文化芸術のコラボを積極的に促していくことが必要なのではないかと思った。例えば、大和で映画を創るのであれば、大和の文化芸術を活用して映画を撮ってもらい、それを発表すれば、映像文化の振興が図られると同時に、発信のツールとしても機能すると思う。このほかにも、コンサートや展示会を楽しめる文化芸術ツーリズムの実施や、様々な文化芸術情報がリンクされているホームページの作成など、様々な形でコラボレーションを行うことが、文化芸術だけでなく、大和全体を発信する契機になると思う。

委員：今までの話を整理すると、「大和市では、市民の主体的な活動により」のところに、市民（プロの方もアマチュアの方も含めて）みたいなことを、入れていただければいいのかなと思う。それから、線引きの話については、非常に難しい問題であり、これを明らかにするためには、まず、今回の計画で取り扱う文化芸術とは何かという定義づけを行わなくては議論が成り立たないと思う。

会長：表現が正しいかは分からないが、大和にはプロフェッショナルの方が多く活動しているということを書いて欲しいということであろう。それから、見据えるべき課題の中では、個々で行われている文化芸術をいかにコラボ、タイアップさせて発信力を高めていくかといった内容をこの中に入れることができるか検討願いたい。

「3. 多様な文化を持つ人々が集まる大和市」について

会長：この欄の見据えるべき課題は具体性に欠けているように思うがどうか。

事務局：他と比較して、具体性に欠けていることは認識している。文化芸術振興条例では「多文化

共生を実現するための施策を推進する」と定めている。これを受けて策定する計画は、多文化共生社会を実現するためのすべての施策の方向性を定めるのか、それとも、多文化共生社会の実現に貢献していくための文化芸術施策の方向性を定めるのかが、いまだに明確に見えていなかったことから、曖昧な表現になってしまった。

委員：現在は、国際化協会が中心となって、外国人市民が暮らしやすい環境づくりを進めているが、文化芸術施策までは手が回らないのが実情なのではないか。文化芸術を介して、大和で暮らしている外国人の方々が、自分たちの国の文化芸術に誇りを持ち、なおかつ一緒に暮らしていける状況をつくるのが私たちのすべきことではないかと思う。

会長：大和には外国の方が持っている音楽、食べ物などを発信する機会はあるのか。

事務局：食文化を紹介するイベントや催しは比較的頻繁に行われているが、外国人の団体がそれぞれの国の音楽を紹介するといったものは少ないと思う。

会長：そういった内容を見据えるべき課題として入れていくべきではないか。

委員：特性の中に、光明市と友好都市を締結したことを加えるべきである。友好都市との交流を促進していくことが、国際交流、多文化共生の推進につながると思う。

委員：条例をつくる時も多文化共生の部分は難しかった。個人的には、日本人が閉鎖的な考えをせず、どなたも仲間であるというような市になるう、というイメージとして受け止めた。以前、ベトナム人ならベトナムの踊りが出来るだろうと言われることがとても嫌だという子どもに接したことがある。まずは、海外の友好都市との交流で文化を広げ、その流れの中で、様々な文化を持つ人々と一緒に暮らしていける状況をつくっていくことが、こうした子どもの気持ちにも逆らわない最良の方法であると思う。私も、特性の中に海外友好都市の記述が入った方が良いと思う。

委員：以前、私は、言葉がわからないから国際交流が進まないという考えがあったが、クラシックギターの全米チャンピオンになった方のコンサートを観てから、国際交流をそんなに難しく考える必要はないことに気がついた。音楽、絵などをコミュニケーションのきっかけとしていけばよいのではないか。大和市にとって、海外の友好都市ができたことは大きい出来事であると思うので、大和市の特性と同時に、今後の目標の中にも記述すべきと考える。

会長：見据えるべき課題の中にある、「地域での文化芸術交流」という文言を、文化芸術面でこういった部分はこういう事をやるべきであるといった、もう少し強調した表現にする必要がある。

(3) 施策目標・具体的方策の構成について

市から、「施策目標・具体的方策の構成(資料2)」について説明。

委員：具体的方策2-4の子ども読書活動の推進は、自分自身関わっているということもあり、よくぞ入れてくれたという思いである。

委員：具体的方策3-2に「伝統文化継承者の発掘、育成」とある。おそらく伝統文化の継承というのはそこに存在が明らかになっているものなので、発掘の記述は必要ないと考える。

(4) その他

市から、第5回、第6回の開催日程の調整を依頼。第5回目は1月24日(月)、第6回目は2月18日(金)にいずれも午後1時30分から開催することを確認した。

市から、「漫画家・村上もとかの世界 - 村上作品の魅力を探る - 」を開催することを報告した。